

P21

子ども歯科への Cone Beam CT の活用
-上顎第 1 大臼歯異所萌出の対応に関するシ
ステム紹介-

○大野陽真、西川哲太、宮本理恵、
宮本茂広、大野秀夫
(医)おおの小児矯正歯科(下関市)

【はじめに】

近年、歯科用 Cone Beam CT(以下 CBCT)を
導入する歯科医院が増加している。当医院に
おいても 2009 年に CBCT の導入を行った。

医療者にとっての CBCT の最大の利点は正
確な診断が可能になることである。また、患
者にとっては 2 次元 X 線写真に比べて立体感
あふれる媒体としての効果がある。

今回は、当医院における CBCT の活用状況
を上顎第 1 大臼歯異所萌出症例に限定して、
CBCT のシステム紹介(図 1)および症例の経過
について報告する。

【研究対象および方法】

対象は当院で 2010 年 4 月から 2011 年 5 月
の 1 年 2 か月の間に CBCT を撮影した患者で
上顎第 1 大臼歯の異所萌出を認めた患者 6 名
(男児 3 名、女児 3 名)であった。図 1 に従っ
て症例の経過を述べる。

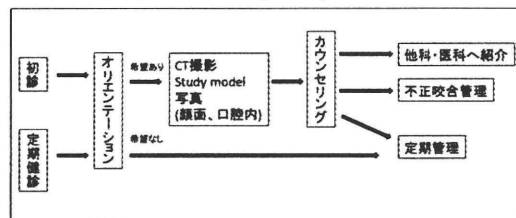


図 1 当院の CBCT 撮影のシステム

【結果および考察】

1. 当院の上顎第 1 大臼歯異所萌出に関する
CBCT のシステムは、CBCT のみの患者説明で
はなく、study model および写真を併用する
ことで、CBCT を説明媒体として明確にした。
これにより患者にとって非常に分かりやす
いカウンセリングシステムが構築できたと思
われた。
2. 本システムは患者にとって治療方針を非
常に理解しやすく治療導入がスムーズに行
うことができた。
3. 本システムは医療者側にとって個々の症
例の異所萌出の原因が明確になり、系統だ
った治療方針の立案が可能になった。

P22

口腔の育成における歯科衛生士の役割
赤柳美穂 (徳島県 川原歯科医院)

【目的】

2010 年の学校歯科健診において近隣の
小学校 6 年生一人あたりの平均 DMFT は、
不定期に歯科医院を受診している児童は 1.
5 本、定期的に受診をしている児童は 0.6
本、また、歯列咬合不正の児童は全体の 48.
2% だった。私は健全な口腔の育成には、う
蝕のリスクコントロールと咬合誘導が大切だ
と考えている。今回は、歯列不正を主訴とし
来院した子どもへ、う蝕予防から矯正治療を
行って口腔の健康づくりへと意識改革をする
ことができた症例を報告する。

【方法】

患者	M. K 10 歳 10 カ月 女児
主訴	歯並びが気になる
既往歴	特記事項なし
現症	歯列咬合不正 初期う蝕あり

現状の把握と今後の治療計画作成のためデ
ントカルト社の唾液検査キットを用いてカリ
エスリスク検査を実施した。ハイリスクであ
ったため初期う蝕部位には予防充填処置を行
った。また本人へのモチベーションの向上に
つながるよう、口腔内の説明と矯正装置に対
応するブラッシング指導を繰り返し行うと同
時に、患者とのコミュニケーションに重点を
おき生活習慣の改善や定期的な歯科医院への
受診をすすめた。

【結果】

矯正治療を行い定期的に受診することで患
者自身が口腔の変化に気づき、生活習慣の改
善を行った結果カリエスリスクも低下した。
意欲的に来院することが、本人の意識改革に
もつながったと考えられる。

【考察】

小児期における口腔の健康管理は養育者か
ら小児本人へと移行する期間である。その時
期に患者自身に口腔への関心を持たせ、自ら
が行う健康づくりに誘導していくべきであ
り、患者と共に口腔の健康を守り育ててい
くことが歯科衛生士の役割と考える。